

【平成21年度における研究の実施状況】

中心研究者及び支援機関を中心に、サブテーマの統合を含め組織・体制を見直し、研究体制及び研究計画を再構築した。具体的には、サブテーマ「有機系太陽電池の実用化に向け、新概念、新素材、新構造に関わる基盤研究」、「有機無機ハイブリッド接合を用いる高効率太陽電池の開発」、「理論計算化学による有機系太陽電池の基礎科学」、「透明導電膜を必要としない縦型タンデム色素増感太陽電池の機能実証」、「色素増感太陽電池の高効率化のための要素技術開発」、及び「低コスト色素増感太陽電池の製造と発電実証試験」を東京大学集中研と共同実施先で実施することとした。共同実施先は桐蔭横浜大、九州工業大学、(株)ソニーである。また、サブテーマ「超高効率色素増感太陽電池を目指した新規増感色素の探索」、「有機薄膜太陽電池の劣化機構の解明」を産業技術総合研究所で統合して実施し、サブテーマ「高効率有機薄膜太陽電池の作製」の一部(住友化学実施分)と連携して進めることで、開発リソースの効率的利用を図った。

(財)神奈川科学技術アカデミーは、サブテーマ「認証データ計測センター機能構築と要素技術の開発・評価」で計画する認証データ計測センター設置に向けて、産業技術総合研究所を始めとした関連機関との協議を開始した。早稲田大学はサブテーマ「電荷分離・輸送・貯蔵ポリマーの複合機能制御と新型湿式太陽電池の創出」の、京都大学はサブテーマ「光電変換の原理解明に基づく高効率有機薄膜太陽電池の開発」の研究計画を立案した。岐阜大学はサブテーマ「高度構造制御された酸化チタンナノ微粒子の高速合成及び製膜技術の開発」で、色素増感太陽電池に欠かせない材料である酸化チタン超微粒子合成方法の研究計画を立案した。アイシン精機(株)・(株)豊田中央研究所・ソニー(株)・シャープ(株)は色素増感太陽電池開発の、東レ(株)・住友化学(株)は有機薄膜太陽電池開発の、新日本石油(株)・太陽誘電(株)・(株)リコーは有機系太陽電池の材料開発計画をそれぞれ立案した。

【収支状況の概要】

(単位：円)

助成金の受領状況(累計)	合計	経費A	経費B	経費C
①交付決定額	3,067,000,000	2,800,000,000	108,000,000	159,000,000
②既受領額(前年度迄の累計)	0	0	0	0
③当該年度受領額	609,980,000	564,470,000	13,500,000	32,010,000
④(=①-②-③)未受領額(累計)	2,457,020,000	2,235,530,000	94,500,000	126,990,000

(単位：円)

当該年度の収支状況	合計	物品費	旅費	謝金・人件費等	その他
経費A ①収入	564,470,000	0	0	0	564,470,000
②執行額	0	0	0	0	0
③(=①-②)未執行額	564,470,000	0	0	0	564,470,000
経費B ①収入	13,500,000	300,000	2,400,000	300,000	10,500,000
②執行額	0	0	0	0	0
③(=①-②)未執行額	13,500,000	300,000	2,400,000	300,000	10,500,000
経費C ①収入	32,010,000				
②執行額	0				
③(=①-②)未執行額	32,010,000				
総収入(経費A+B+Cの①の合計)	609,980,000				
総執行額(経費A+B+Cの②の合計)	0				
総未執行額(経費A+B+Cの③の合計)	609,980,000				